授業実践のまとめ

中学校　第2学年　単元名　魅力的な提案をしよう　資料を示してプレゼンテーションをする
「国語2（光村図書）」（全5時間）

単元について

本単元では、町外出身の学級担任に実際に訪れてもらえるように町内のおすすめスポットを提案する設定で、プレゼンテーションを行います。聞き手を設定してプレゼンテーションを組み立てることで、次に示す資質・能力を身に付けることができるようにします。

〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
ア　言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」(1)
イ　自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。
ウ　資料や機器などを用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

1　単元の目標

(1)　言葉には、聞き手の行動を促す働きがあることに気付くことができる。　〔知識及び技能〕(1)ア
(2)　自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
(3)　資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。　〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ
(4)　言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力、人間性等」

2　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　言葉には、聞き手の行動を促す働きがあることに気付いている。（(1)ア）	①　「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。（A(1)イ） ②　「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）	①　自分の考えが分かりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。

単元の目標や評価規準の設定については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターWeb「学習評価の進め方」を御参照ください。

３　単元の指導と評価の計画（全5時間）「学習指導案」

本単元で育成を目指す資質・能力を示し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにします。

単元で身に付けさせたい資質・能力を、「学級担任に町内のおすすめスポットを提案する。」という言語活動を通して身に付けられるように指導します。

単元終末に、単元の学習を振り返る場面を設定します。

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や計画をつかみ、学習の見通しをもつ。	➡ 工夫1：見通しと振り返りの工夫	本時は、A(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。
	○話の構成を工夫することや提示資料作成のポイント、聞き手を意識した言葉や表現について考える。 ○聞き手のことを考えて、提案内容とアピールしたい点を決める。	・教科書や教師が作成したプレゼンテーションの例を示すことで、考えをノートに記入することができるようにする。 ・聞き手の興味・関心や町内に関する知識量を確認し、提案内容とアピールしたい点についてグループで検討することができるようにする。	
2	○話の構成を工夫しながら進行案を作成し、役割分担や時間配分を決める。 ○自分が担当する部分の内容の詳細を考え、発表メモを作成する。	・第１時の学習で決めたアピールしたい点が効果的に伝わるようにグループで話合いをすることで、話の構成を工夫し、進行案を作成することができるようにする。 ・必要に応じて再度情報を集めてよいことを伝えるとともに、発表メモには要点を記入するように指示し、読み上げるための原稿にならないようにする。	［思考・判断・表現］① 観察・ノート・進行案 ・ここでは、アピールしたい点が効果的に伝わるように話の構成を工夫しているかを確認する。
3	○提案内容が分かりやすく伝わるような提示資料を作成する。 ○練習を通してプレゼンテーションの改善を図る。 ○プレゼンテーションを組み立てる際に考えた工夫を整理する。	・第１時の学習で考えた提示資料の作成のポイントを示すことで、提案内容が分かりやすく伝わるような表現の工夫を考えることができるようにする。 ・聞き手を意識した練習を行うように促し、話の構成、言葉や表現を改善することができるようにする。 ・プレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫をノートに整理することで、第４時のリハーサルの前に説明できるようにする。	［思考・判断・表現］② 観察・提示資料 ・ここでは、提示資料を用いて、提案内容が視覚的にも伝わりやすくなるように工夫しているかを確認する。
4 本時	○他のグループとプレゼンテーション発表会に向けたリハーサルを行い、相互にアドバイスを行う。 ○リハーサルを振り返り、プレゼンテーションの改善について検討し、修正する。	・リハーサルの前に、話し手はプレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫を説明し、聞き手はそれらに着目してアドバイスをすることを確認する。 ・聞き手からのアドバイスを基にリハーサルを振り返るように促し、アドバイスシートを効果的に活用するようにする。 ・必要に応じて進行案や発表メモ、提示資料を修正するように促す。	［主体的に学習に取り組む態度］① 観察・進行案 ・ここでは、リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、表現の工夫を考えようとしているかを確認する。
5	○プレゼンテーション発表会を行い、よかった点や改善点について考える。	・学級担任にプレゼンテーションを行うことで、聞き手を意識した言葉や表現になるように気を付けることができるようにする。 ・プレゼンテーションを聞くときの視点を示すことで、気付きをノートに記入することができるようにする。	［知識・技能］① 発表・ノート ・ここでは、聞き手を意識して言葉や表現を工夫しているかを確認する。
	○プレゼンテーションの振り返りを基に、単元全体の学習を振り返る。	・振り返りの視点を示すことで、本単元で学んだことを、今後の学習でどのように生かしていくのかについて考えることができるようにする。 【振り返りの視点】 ①単元の目標を達成するために頑張ったこと ②単元で工夫しようとしたが十分ではなかったこと ③今回学んだことを、これからどのように生かしていくか	

単元において、生徒の学習状況を適宜把握する場面を設定します。
ここでは、〔記録に残す評価〕のみを位置付けていますが、学習内容を確実に習得できるようにするため、〔指導に生かす評価〕を適宜行います。

単元の指導と評価の計画の作成については、国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」や佐賀県教育センターWeb「学習評価の進め方」、「単元デザイン FIRST STEP」、「学習評価 FIRST STEP」を御参照ください。

４　本時の目標

リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、表現の工夫を考える。

５　本時の展開(4/5)　「授業づくりのポイント　チェックシート」「学習指導案」

	学習活動	指導上の留意点
導入	１　前時の学習を振り返り、本時の目標と学習内容を確認する。	・前時の終末に、プレゼンテーションで分かりやすく伝えるための工夫について整理したことを想起することができるようにする。それらを意識しながらリハーサルを行い、改善点について検討し、プレゼンテーションを修正することを確認する。 リハーサルを通して、プレゼンテーションを改善しよう。
展開	２　リハーサルに向けて、役割分担やプレゼンテーションの流れを確認する。 ３　他のグループとプレゼンテーション発表会に向けたリハーサルを行い、相互にアドバイスを行う。 ４　リハーサルを振り返り、プレゼンテーションの改善点について検討し、修正する。	・リハーサルの進め方を説明し、グループで役割分担や流れを確認できるようにする。 ・リハーサルの前に、話し手がプレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫を説明することで、聞き手がそれらに着目したアドバイスをできるようにする。 ・リハーサルでは、話す順番で並び、作成した提示資料を自分の１人１台端末で提示することで、話の構成を示すことができるようにする。 ・リハーサルの後、聞き手は、アドバイスとして気付きを話し手に口頭で簡潔に伝え、その内容をアドバイスシートに記入するように説明する。 ・グループで作成した進行案をコピーしてグループ全員に配付し、話し手が個人でリハーサルの振り返り､気付きを記入することができるようにする。 ・話し手の進行案を確認しながらリハーサルを聞くことで、聞き手が具体的なアドバイスをできるようにする。 ・プレゼンテーションが、第１時で考えた話の構成の工夫や提示資料作成のポイントに沿ったものになっているか、聞き手を意識して言葉や表現を工夫することができているかについて振り返ることを確認する。 ・アドバイスシートを確認することで、課題の把握につなげるようにする。 ・進行案に気付きを記入する際は、自分で考えたことは赤いペンで、グループで考えたことは青いペンで記入するように促し、個人の考えが分かるようにする。 ・検討する際には、必要に応じて、教師や他のグループにアドバイスを求めてもよいこととする。 ・必要に応じて進行案や発表メモ、提示資料を修正するように促す。 ➡ 工夫2:本単元で育成を目指す資質･能力に沿った言語活動にするための工夫(pp.5-6)
終末	５　本時の学習内容について、本時の目標に対応したまとめを行う。 ６　本時の振り返りを行い、次時の学習内容を確認する。	・幾つかのグループを取り上げ、リハーサルで把握した課題と、その改善のために考えた工夫について全体で共有を図る。 ・振り返りの視点を示し、自らの学習の状況を捉えることができるようにする。 【振り返りの視点】 ①本時で学んだこと ②これからの学習で頑張りたいこと ・次時はプレゼンテーション発表会を行うことを確認する。

ポイント

〔本時の目標〕
本時の学習の見通しを具体的にもつことができるように、本時の目標を示します。

〔書く活動〕
プレゼンテーションの改善点について検討することができるようにするために、まず、個人でリハーサルを振り返り、進行案に気付きを記入するように伝えます。

〔話し合う活動〕
個人で気付いたことを基に、グループで改善点について検討するように伝えます。

〔学習評価〕
観点別学習状況の評価を総括する資料となるよう、〔記録に残す評価〕を行います。
進行案に記入する際は、自分の考えは赤いペンを、グループで考えたことは青いペンを使うように指示し、グループ活動における個人の評価を見取ることができるようにします。

〔まとめ〕
本時の目標に対応したまとめを行うことができるようにします。

〔振り返り〕
振り返りの視点を示し、本時の振り返りを行うことで、自らの学習を調整しながら主体的に学ぶことにつながるようにします。

6　単元及び本時における指導と評価の工夫

工夫1：見通しと振り返りの工夫

単元の始めに、生徒が単元の見通しをもつ場面を設定しました。単元の目標（資料1）を生徒に示し、その目標を実現するために取り組む言語活動について説明しました。その際、単元の流れについても確認し、生徒が単元の見通しをもつことができるようにしました。

《第１時（単元の始め）　単元の目標を知り、学習の見通しをもつ。》

本単元は「魅力的な提案をしよう　資料を示してプレゼンテーションをする」です。それでは、まず、魅力的な提案とはどのようなものか考えてみましょう。

聞き手に分かりやすい提案だと思います。

確かに、聞き手に分かりやすいことが大切ですね。
では、どうすれば「聞き手に分かりやすい提案」になると思いますか？
単元の目標を踏まえて、考えましょう。
（単元の目標を黒板に提示する）

○単元の目標

この単元では、話の構成を工夫したり、資料を使ったり、言葉や表現に気を付けたりしながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す力を伸ばす学習をします。

具体的には、学級担任の先生に、町内のおすすめスポットについてプレゼンテーションをすることに取り組みます。先生に、「行ってみたいな」と思ってもらえるような魅力的な提案をしましょう。

資料1　単元の目標

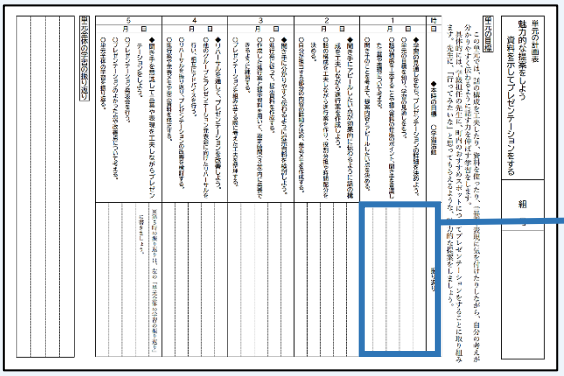
話の構成を工夫したり、資料を使ったり、言葉や表現に気を付けたりするといいと思います。

そうですね。話の構成を工夫する、資料を使う、言葉や表現に気を付けることをポイントに、自分の考えが分かりやすく伝わるようにプレゼンテーションをすることが、本単元の学習になります。そして、今回は担任の先生が聞き手ですので、聞き手の興味や関心を考えて、聞き手を引き付けるような工夫を行うことが重要です。

本単元では、単元の計画表（資料2）を用いて、学習の見通しをもつことができるようにしました。単元の計画表では、１単位時間の授業で何ができるようになればよいか、生徒が具体的にイメージすることができるように、本時の目標と学習の流れを示しました。また、振り返りを記入することができるようにしました。振り返りを行う際は、生徒が自らの学習の状況を捉えることができるようにするために、振り返りの視点を示しました。

《第１時（終末）　本時の学習の振り返りを行う。》

単元の計画表に振り返りを記入しましょう。振り返りの視点は、「『話す力』を伸ばすために、この単元で頑張りたいこと」です。



資料2　単元の計画表

振り返り
この単元で、相手に分かりやすいように構成を工夫したり、資料を使って相手の反応を見たりしながら話すことを頑張りたいです。

生徒Ａ

教師のコメント
プレゼンテーションを聞いた担任の先生が、実際に提案した場所に行ってくれるような発表になるよう、頑張っていきましょう。

振り返り
担任の先生が行きたくなるような文章を考えて、分かりやすく大きな声でプレゼンテーションできるように練習していきたいです。

生徒Ｂ

教師のコメント
相手意識をもつことができていてすばらしいです。話す力を伸ばす学習なので、文章ではなくて、話の構成や提示資料について考えていきましょう。

資料3　振り返りの記述

振り返りの記述（資料3）から、生徒が単元の目標に示した内容を理解しているか確認しました。生徒Ａは、振り返りの中に、「構成を工夫し」や「資料を使って」、「相手の反応を見たりしながら話す」などという記述があることから、単元の見通しをもつことができていることが分かりました。生徒Ｂのように単元の見通しをもつことができていないと考えられる場合は、教師のコメントで単元の目標に沿って考えていくように促しました。

工夫2：本単元で育成を目指す資質・能力に沿った言語活動にするための工夫

本時の目標は、リハーサルを通して、聞き手に分かりやすく伝わるようにするためにプレゼンテーションの改善点について検討し、表現の工夫を考えることでした。

導入の場面で、本時の目標と学習内容を生徒と共有した後に、リハーサルにおいて「アドバイスをするときのポイント」（資料4）を大型提示装置に提示し、本単元で育成を目指す資質・能力に沿ったアドバイスになるように気を付けることを確認しました。

《学習活動１　前時の学習を振り返り、本時の目標と学習内容を確認する。》

今日の目標は、「リハーサルを通して、プレゼンテーションを改善しよう。」です。
リハーサルを他のグループに見てもらい、アドバイスを受け、そのアドバイスを基にプレゼンテーションを改善します。
では、どのようなアドバイスをすればよいのでしょうか？

発表だから、声の大きさとかかな･･･？

話す態度は大事だよね。でも、プレゼンテーションを組み立てるときに工夫したことが効果的だったかどうかを知りたいな。

話の構成についてアドバイスすればいいの？

提示資料も工夫しながら作ったね。

ほかにも、聞き手を意識した言葉や表現になるように工夫したよね。

そうですね。
（大型提示装置に「アドバイスをするときのポイント」を示す。）
第１時で、プレゼンテーションを組み立てるときに意識することとして、話の構成を工夫することや提示資料作成のポイント、聞き手を意識した言葉や表現について確認しましたね。
そのことが、「アドバイスをするときのポイント」になります。

アドバイスをするときのポイント
話の構成
・双括型
・頭括型
・尾括型
提示資料を活用すること
・内容は端的に示す。
・項目立てて示す。
・写真やイラストなどを使う。
・文字の大きさや分量に気を付ける。
聞き手を意識した言葉や表現にすること
・担任の先生の興味や関心を引くような言葉や表現にする。
・言い換え
・問い掛け、呼び掛け

資料4　アドバイスをするときのポイント

大型提示装置に示した「アドバイスをするときのポイント」は、リハーサルを行うときや、アドバイスを基にプレゼンテーションを改善する活動のときにも常に提示し、生徒が必要な際にいつでも確認することができるようにします。

リハーサルの前に、話し手がプレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現の工夫を説明する場面を設定しました。その上で、リハーサル（資料5）では、聞き手はアドバイスシート（資料6）を見ながらプレゼンテーションを聞くように促しました。そうすることで、聞き手は、本単元で育成を目指す資質・能力に沿ったアドバイスができるようになりました。

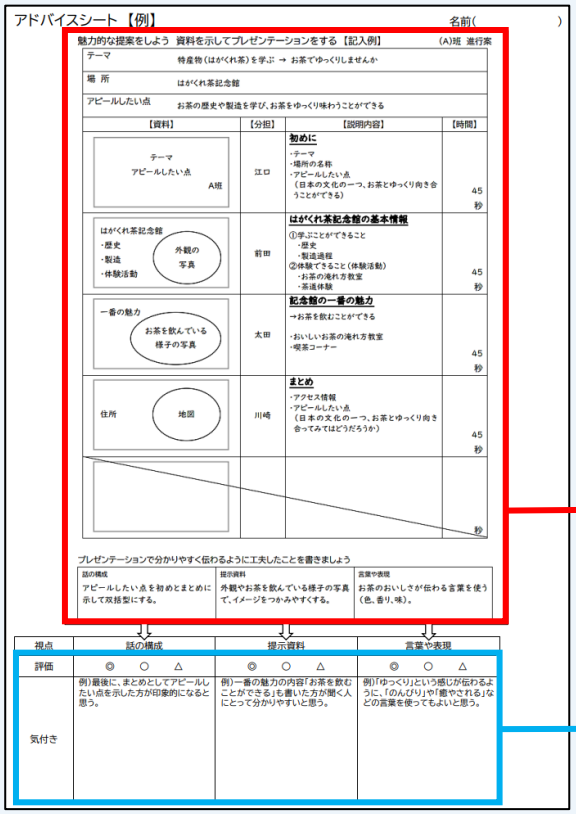
《学習活動３　他のグループとプレゼンテーション発表会に向けたリハーサルを行い、相互にアドバイスを行う。》

リハーサルの前に、話し手はプレゼンテーションを組み立てる際に考えた話の構成や提示資料、言葉や表現についての工夫を説明しましょう。
聞き手はそれらに着目しながら発表を聞いて、アドバイスを行うようにしましょう。

資料5　リハーサルの様子

プレゼンテーションで提案する場所は、はがくれ茶記念館です。アピールしたい点はお茶の歴史や製造を学び、お茶をゆっくり味わうことができるということです。
アピールしたい点が伝わるように、話の構成では、アピールしたい点を初めとまとめに示して双括型にするという工夫をしました。提示資料では、外観やお茶を飲んでいる様子の写真で、イメージをつかみやすくするという工夫をしました。言葉や表現では、お茶のおいしさが伝わるような色や香り、味についての言葉を使うという工夫をしました。そこに着目しながら、プレゼンテーションを聞いて、アドバイスをお願いします。それでは始めます。

話し手



アドバイスシート【例】　名前（　　）

魅力的な提案をしよう　資料を示してプレゼンテーションをする【記入例】　(A)班　進行案

テーマ	特産物（はがくれ茶）を学ぶ → お茶でゆっくりしませんか
場　所	はがくれ茶記念館
アピールしたい点	お茶の歴史や製造を学び、お茶をゆっくり味わうことができる

【資料】	【分担】	【説明内容】	【時間】
テーマ アピールしたい点 A班	江口	**初めに** ・テーマ ・場所の名称 ・アピールしたい点 （日本の文化の一つ、お茶とゆっくり向き合うことができる）	45秒
はがくれ茶記念館 ・歴史 ・製造 ・体験活動 外観の写真	前田	**はがくれ茶記念館の基本情報** ①学ぶことができること ・歴史 ・製造過程 ②体験できること（体験活動） ・お茶の淹れ方教室 ・茶道体験	45秒
一番の魅力 お茶を飲んでいる様子の写真	太田	**記念館の一番の魅力** →お茶を飲むことができる ・おいしいお茶の淹れ方教室 ・喫茶コーナー	45秒
住所 地図	川崎	**まとめ** ・アクセス情報 ・アピールしたい点 （日本の文化の一つ、お茶とゆっくり向き合ってみてはどうだろうか）	45秒
			秒

プレゼンテーションで分かりやすく伝わるように工夫したことを書きましょう

話の構成	提示資料	言葉や表現
アピールしたい点を初めとまとめに示して双括型にする。	外観やお茶を飲んでいる様子の写真で、イメージをつかみやすくする。	お茶のおいしさが伝わる言葉を使う（色、香り、味）。

視点	話の構成	提示資料	言葉や表現
評価	◎　○　△	◎　○　△	◎　○　△
気付き	例）最後に、まとめとしてアピールしたい点を示した方が印象的になると思う。	例）一番の魅力の内容「お茶を飲むことができる」も書いた方が聞く人にとって分かりやすいと思う。	例）「ゆっくり」という感じが伝わるように、「のんびり」や「癒やされる」などの言葉を使ってもよいと思う。

資料6　アドバイスシート

なるほど。そのような工夫をしながらプレゼンテーションを組み立てたのか。説明を聞いて、アドバイスシートを確認しながらプレゼンテーションを聞くと、工夫とその効果があるのかどうかが分かりやすくなるな。

聞き手

アドバイスシートには、話し手のグループの進行案を示し、話の構成や提示資料、言葉や表現で工夫したことが視覚的に分かるようにしました。

話の構成や提示資料、言葉や表現で工夫したことで、プレゼンテーションが分かりやすくなっているかどうかを評価し、気付きを記入することができるようにしました。

リハーサルの後に振り返りを行い、プレゼンテーションの改善点について検討し、修正する場面を設定しました（資料7）。その際、アドバイスシートを確認することで、プレゼンテーションの課題の把握につなげるようにしました。

《学習活動４　リハーサルを振り返り、プレゼンテーションの改善点について検討し、修正する。》

アドバイスシートを基に、グループでリハーサルを振り返りましょう。

資料7　グループで検討している様子

文字が多すぎて、提示資料が分かりにくいというアドバイスをもらったね。

説明内容のポイントだけを記入するようにした方がいいかもしれないね。

話の構成は、双括型にしているけれど、それが分かりやすかったみたいだ。

アドバイスシートの「言葉や表現」のところには、もっと聞き手の興味や関心を引くような工夫があればよいとあるけれども、どのような工夫ができるかな。

「行ってみたいな。」と思ってもらうためには、おすすめスポットのアピールしたい点を伝えないといけませんね。どのような言葉や表現ならば、アピールしたい点が伝わると思いますか？

アピールしたい点は、お茶の歴史や製造を学び、お茶をゆっくり味わうことができるということだから、言葉や表現では、お茶のおいしさが伝わるような言葉を使うという工夫をしたんだよね。

「ゆっくり」がアピールできていないから、「落ち着く」、「安らぐ」のような言葉も使ってみるといいかもしれないね。

グループ活動の際は、机間指導を行い、適切に話合いが行われているか確認します。
改善点について検討することが難しい場合は、検討する際の視点を示すなど、適宜助言を行うことが重要です。

7　授業者の声

生徒が単元の見通しをもつことができるようにするために単元の計画表を作成したり、１時間の授業の見通しをもつことができるようにするためにワークシートの工夫をしたりしました。生徒が、それらを活用しながら主体的に学習を進める様子に、見通しをもつことの大切さを感じました。

本時で、リハーサルを通してプレゼンテーションを改善する活動を行う際、プレゼンテーションを聞くだけでは、聞き手が話し手に対して有効なアドバイスをすることは難しいと考えました。そこで、プレゼンテーションの進行案とプレゼンテーションを組み立てる際に考えた工夫を一枚にまとめたアドバイスシートを作成し、可視化することを試みました。このアドバイスシートの活用で、全ての生徒がアドバイスを記入することができました。また、話の構成に関するアドバイスを伝えることができた生徒もおり、その効果を感じることができました。

今後も、単元を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、生徒が主体的に学ぶことができる授業づくりを行っていきたいと思います。